

図 書 室

生研図書室の特色としてはまず外国雑誌とそのバックナンバーが比較的整備されていることであろう。これは戦後のある時点において積極的にバックナンバーの充実に努めたことにもよっている。その反面学術的単行書は古いものが多く、新しいものは書庫には配架されず各研究室に分散している。これは後述するように書庫の面積が不足していることも原因である。

図書室の運営は各研究部教官中から選出された委員によって構成される図書委員会(委員長ほか委員10名)の指揮監督の下に行なわれている。図書委員会の機能は図書予算の作成、図書貸出規定の作成および改訂、図書分類法の制定、購入図書雑誌の選定等図書行政の広い分野にわたっている。図書の分類は国際十進法などを参考にして、本所の特殊事情に合わせて作成した独自の十進分類法によっている。

図書室関係が占める建物延面積は、表1のとおりである。このうち閲覧室面積には新着および未製本雑誌を収納しているスペースが含まれている。また事務室の面積には目下進行中の整理のために使用されている面積が含まれていて、整理の完了とともに図書室としてはそれを他の目的に転用する予定である。

表1 図書室関係占有面積

書 庫	413.25m ²
閱 覧 室	128.93
事 務 室	76.03
計	618.21m ²

蔵書数およびその購入価格の累計は表2のとおりであって、最近の急増ぶりが見られるであろう。カレントナンバーの購読数は表3のとおりで、同じく近年急増している。

表2 蔵書数およびその価格の推移

年 度	冊 数			価 格 (千円)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
昭和23年度末	28,408	25,126	53,534	724	636	1,360
昭和33年度末	38,020	34,809	72,829	6,338	33,481	39,819
昭和42年度末	47,790	49,440	97,230	21,704	109,015	130,719

昭和41年度から新たに大学院学生指定書制度を実施し、学生の自習の便宜を図っている。この図書の選定は教官を通して学生の希望を聞き、教官の意見も加えた資

表3 購入カレントナンバーの推移

昭和23年度	American Machinist 外	111点
昭和33年度	Acta Metallurgica 外	328点
昭和43年度	Acta Crystallographica 外	466点

料に基づき、最終的には図書委員会でなっている。

過去10年間における図書室としての最大の事業は千葉から東京への移転に伴う図書の整理であった。これは単に物理的に重量100tほどの図書を移すというだけではなく図書室の運営方法をこの際に根本的に変更したからである。すなわち従来からも中央図書室の管理の図書は存在していたが、図書の主力は各部に分散した分室が管理していた。これを移転に際し全部中央図書室に集中し、各部の分室を廃止することになったからである。この方針は昭和33年度から検討が始められていた。

上の方針に基づいて麻布庁舎内に図書室の割り当て面積および配置が決定され、所要の工事が終り、実際に図書の搬入が開始されたのは昭和38年6月であった。最初は部別にかなり雑然と搬入されて来た図書をとりあえず収容した。そのうちの雑誌は書名のアルファベット順に配列配架し、単行書についてはまず新分類法に基づいて十進分類を行ない、カードを作成し、ついで分類順に総配架換えを実施した。これは昭和41年に一応完了した。この間の所長以下所全体の理解、委員各位の協力もさることながら、これらのことが平常業務と平行して行なわれたために、担当係員の努力は並々ならぬものがあつた。以後引続き残務整理が行なわれて今回に至っている。その一方いわゆる大船図書の受入れ業務が行なわれた。大船図書というのは旧海軍の大船燃料廠所管であった図書のうち戦後生研に移管された数千冊に及ぶ図書雑誌の山のような集団を指すものである。これは今となっては古いものになったがそれでも数多くの貴重な図書が含まれている。この整理はもっと早くすべきであったが、たまたま移転とその後の整理の時期とちがったために延ばされていたもので、やっと最近その整理が一応完了した。

現在の書庫は移転後約10年は機能する計画であったが、計画当初に比べて雑誌の種類とその一冊当りの厚さの増加のために、書庫は現時点ですでに満員となり、肥満児の様相を呈して来ている。この問題をいかに解決するかは今後の大きな問題である。

(大井光四郎記)